

《担当者名》清水友陽（非常勤講師 shimizu-shinri@hoku-iryu-u.ac.jp）

【概要】

複雑性や不確実性が増す中、事前に決められた計画に従うだけでなく、その都度個別の「状況に応じる能力」が必要となる。多様性を理解し、小さな差異や複雑性を残しつつ、協働して新たな関係を構築するスキルが求められる。本講義では、演劇的手法を用いグループワークを中心に、実際に身体を動かしながら「主体的に判断し対応していく力」「創造する能力」「他者を想像しての対話」を身につけるための、実践的なコミュニケーションを学修する。

【学修目標】

自分自身を客観的に観察し、各自のコミュニケーションの方法を発見する。  
 キャリア形成の今日的意義を理解する。  
 他者を知り、相手を想像して伝達するためのスキルを身につける。  
 協働的なリーダーシップの視点を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義計画と講義の進め方、ループリックによる評価の説明。講義を進めるための「対話を生み出す場」について考察する。	清水友陽
2	非言語コミュニケーションを体験する	言語を用いないコミュニケーションを、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する。	清水友陽
3	インプロヴィゼーション（即興）を体験する	インプロの協働原則を共有した上で、アクティビティを体験・考察する。	清水友陽
4	創作（前編）	チームに分かれて、セリフのない簡単な創作・発表を行う。どのように伝わったか、観客的視点から考察し、ディスカッションを行う。	清水友陽
5	創作（後編）	4で行った創作を、チームごとに深める。トップダウン型と協働的リーダーシップについての考察、ディスカッションを行う。	清水友陽
6	権力とステータスを体験する	様々な形で社会に存在する、権力とステータスの問題について、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する。	清水友陽
7	文化とアイデンティティの対立の考察	文化とアイデンティティの対立問題について、アクティビティを用いて、体験・考察する。身近にどんな問題が潜んでいるかディスカッションを行う。	清水友陽
8	ストーリー（物語）とナラティブ（語り）を体験する	他者のストーリーに視点を置き、共通の物語を生み出し、それを自分の言葉で語ることを体験する。	清水友陽
9	創作（前編）	6～8で考察したことを題材にして、短い演劇作品を創作・発表する。どのように伝わったか、観客的視点から考察し、ディスカッションを行う。	清水友陽
10	創作（後編）	9で行った創作を深める。観客の対象年齢や、ステータスを変えた想定で、創り変えてみる。	清水友陽
11	ポリフォニック（多声的）な構成の対話を体験する	複数の視点で構成される対話について、体験し考察する。モノログとの違いをディスカッションする。	清水友陽
12	ディスカッション・ドラマの創作（前編）	チームに分かれ、ある設定を元に、ポリフォニックな構成の討論劇を書いてみる。	清水友陽
13	ディスカッション・ドラマの創作（中編）	書き上げたドラマを、短編劇として創作・発表する。観客の意見を聞き、リライトする。	清水友陽
14	ディスカッション・ドラマの創作（後編）	それぞれの作品がどのように伝わったのか、それはなぜか、ディスカッションを行う。	清水友陽

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15	ふりかえり	この講義で何を体験し、またそれぞれの生活に置き換えた時に、どのように応用できるのか、それぞれの言葉で語る。	清水友陽

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

各アクティビティ、創作グループワークへの参加意欲・態度 100%

意欲・態度の評価は、ルーブリック表を用いて行う。演技の技術は問わない。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書】**

使用しない

**【備考】**

適宜、講師による自作資料を使用する。

**【学修の準備】**

全ての時間、身体を使った実践的な体験学修となる。動きやすい服装で参加すること。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP-2.（社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している）

DP-3.（社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している）

上記に掲げる心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

北海道演劇財団理事、演出家、脚本家。演劇ワークショップ・ファシリテーター。

**【実務経験を活かした教育内容】**

演劇的手法を用いて、参加型の学修を行う。

様々な役割や人物を演じる体験をすることにより、考え方の異なる他者のことを想定したコミュニケーションを学修する。